

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和7年8月15日

学校法人 宮地学園

幼稚園型認定こども園 杉の子幼稚園

当園ではこの度、学校評価として、教職員の自己評価と学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人一人が、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自分自身や園全体を見つめ直すよい機会となりました。また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

1. 本園の教育目標

「笑顔いっぱいの杉の子幼稚園」
「心身ともに調和の取れた発育・発達と健全な人間性の基盤をつくる」
「強く かしく たくましい 感性豊かな 思いやりのある子の育成」
望ましい子どもの姿「自分の力で、元気に、仲良く、もうひと頑張りする子」

2. 本年度重点目標・計画

私たちは杉の子幼稚園に関わる全ての人が笑顔になる幼稚園をめざします。

- ・教育課程 指導計画を見直し改善を図る・・・幼稚園教育要領等を踏まえ、よき伝統の上に教育理念「つよく かしく たくましく」を具現化させるため、幼児の実態に合わせた教育課程の編成にあたる。21世紀の国際化社会に羽ばたく子どもたちに情報処理能力を身に付けさせるため、指導計画を見直し、振り返りや反省を行い次に生かしていく。
- ・教職員の資質向上（研修・情報共有等）・・・今年が高知県私立幼稚園連合会主催「公開保育研修会」の会場園になっている。互いの公開保育を見合い、指導力の向上に努める。子どもの《自分で・自分が・自分から》を大切にする」保育者としての専門性を高めるため、研修に積極的に参加する。
- ・特別支援教育のための園内支援体制を整備する（家庭との協力・連携も含む）・・・特別支援が必要な子どもを見逃さず、園全体で共通理解し、個に応じた関わりを心がける。
- ・安全管理体制の強化・・・子どもが安心して過ごすことができる施設や遊具等の安全な環境を整えとともに、子どもに安全生活の習慣や態度を身に付けさせ行動できるよう指導する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育課程を見直し改善を図る	A	・幼稚園教育要領および本園の教育目標に基づき、年齢ごとの子どもの姿に即した改善が図られるように、年間指導計画の見直しを行った。また、子どもの発達や興味関心に応じて、活動内容や教育環境を改善し、計画と実践の連動性も高まった。 ・アクティブラーニングの考え方を取り入れ、子どもたちが主体的に遊び、思考力や表現力を育む活動に取り組んだ。また日々の保育活動の目標設定・実践・振り返り・改善のサイクルを回すことで、保育の質を高めている。その結果、丁寧な保育ができ成果をあげることができた。
2	教職員の資質向上(研修・情報共有等)	A	・高知県私立幼稚園連合会「公開保育研修会」が本園で開催された。研究テーマ「意欲いっぱいの子どもの育てる～友達や先生とのかかわりを通して～」を実践研究し、自ら学び続ける保育者集団として、質の高い教育保育を目指した。公開保育ではECEQの手法を取り入れ、多くの学びを得た。参加者に園の良さをたくさん評価してもらい、職員の意欲にもつながった。 ・保育所保育指針、幼稚園教育要領に基づく研修会に積極的に参加している。 ・様々な教育課題に適切に対応するため、話し合いの機会を十分持ち、教職員の資質と実践的な指導力の向上を図った。

3	特別支援教育のための園内支援体制を整備する (家庭との協力・連携も含む)	A	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の幼児の姿を丁寧に見取り、生活体験がそれぞれ異なることなどを考慮して、発達の課題に即した指導を行ってきた。子どもが困ってしまう環境や関わり（保育者の指示が多い・活動を時間で区切る・一斉保育が多い）を改め、多様な子どもが安心して過ごせる環境、関わりに努めてきた。 保護者の思いに寄り添うために、個人面談や連絡帳でのやり取り、送迎時における会話などを大切にしてきた。また、必要に応じて専門機関と連携し個別の教育支援計画を作成、子どものつまづきに応じた支援を行うことができた。
4	安全管理体制の強化	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎月避難訓練を実施し、園児が避難経路や行動手順を理解し、訓練中も落ち着いて行動できるようになった。 子どもたちの命と安全を100%保障するというのが、私たち職員の間で最も大切な使命である。日常生活のあらゆる状況で起こりうる事故を想定し、事故防止のための措置を全職員が意識し確認を行ってきた。幼稚園の施設・設備・遊具・用具等の安全点検を定期的に行い、日常の中に潜んでいる危険の洗い出しに努めている。気になることがあれば課題を共有し、直ちに対策改善につなげている。

評価の基準（A：十分達成されている B：達成されている C：取組まれているが、成果が十分でない D：取り組みが不十分である）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	4つの評価項目について重点的に取り組み、一人一人の乳幼児を大切に質の高い教育・保育活動を実践することができたし、さらなる質の向上に向けた課題も明確になった。

評価の基準（A：十分達成されている B：達成されている C：取組まれているが、成果が十分でない D：取り組みが不十分である）

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
1 教育内容	<p>コロナ禍という未曾有の経験は、私たちに多くの気づきを与えてくれた。限られた制限の中でも、子どもたちの笑顔や挑戦する心は失われず、工夫次第で豊かな学びが育まれることを学んだ。この経験を糧に、全て元の形に戻すのではなく、改めて「本当に子どもたちに必要な活動は何か」を見極める時期に来ている。形だけが続いてきた活動は精選し、守るべきものを守り、変えるべきものは変える。よりしなやかで温かい教育課程を築き、子どもたち一人一人が輝く教育・保育を目指す。</p>
	<p>本園では、子どもたちが心ゆくまで遊び込むための時間や場を保障し、幼児自身がやりたい遊びを見つけ、自ら取り組む「意欲的」な姿を大切にしてきた。自らやりたいことを意欲的に取り組むからこそ、心が動き没頭して遊びこむことができ、様々な体験の原動力になる。これからも、子どもたちの「やってみたい」「もっとやりたい」という意欲的な姿を引き出す教育・保育の在り方を追求していきたい。</p>
	<p>本園でも特別な支援を必要とする園児が増えてきている。その子が何に困っているのか、何に苦戦しているのかを的確に見極める目を養い、早期の気づきと適切な対応につなげる必要がある。また、療育福祉センターや高知市教育研究所等関係諸機関と連携し、専門家の見解や助言を受け、一人一人の子どもの育ちを見据えた援助について職員全員で共通理解に努める。特に年長児は、小学校と連携し滑らかに確実な接続ができるようにする。</p>
	<p>南海トラフ地震をはじめとする大規模災害の発生に備え、園としての危機管理体制をさらに強化する。地震や津波、火災など様々な想定避難訓練を定期的かつ実践的に実施し、園児一人一人が落ち着いて判断し、自ら安全な行動がとれるよう日頃からの指導を充実させる。園庭の大型遊具は、冒険や挑戦、社会的な遊びの機会を提供し、子どもたちの成長に欠かせないものだが、冒険や挑戦には危険性も内在している。園児自身が危険を予測し、安全な行動を選択できるよう、遊びを通じた安全教育を継続的に実施する。</p>

6. 学校関係者の評価

<神田小学校校長>

日頃より、杉の子幼稚園において教職員の皆様の熱意ある素晴らしい実践が行われていることに心より敬意を申し上げます。貴園を訪れるたびに、先生方はいつも笑顔で明るく迎えてくださっています。温かい雰囲気のもと、きめ細やかな教育をしていることを肌で感じ、先生方の努力の様子がうかがえます。

特に、幼保小の架け橋プログラムにおいては、幼稚園と小学校が互いに連携を深め、年長組の園児が安心して小学校生活へ移行できるよう綿密な準備を重ねている点に心から感謝いたします。今年度は、地域の幼稚園・保育園と小学校の関係者が集まり、指導案の検討会、授業研究会が開催できました。幼稚園での学びや育ちが小学校の学習にどのようなにつながっているのかを、園と小学校の教員と一緒に確認することができ、確実に滑らかな接続ができるよう取り組んでいることは大いに評価します。生活習慣や学習習慣の基礎づくりにおいても、園での丁寧な指導が功を奏していることを実感しています。これにより、小学校に入学した際に児童が自信をもって学校生活をスタートできています。さらに、集団のルールを守る態度や友達との良好な関係づくりにもよい影響を与えています。これからも、年長組の園児が安心して期待感をもって就学に向かうことができるよう、その連携を一層強化し、児童一人一人の成長を支えていきましょう。

<令和6年度後援会会長>

杉の子幼稚園には、二人の子どもが大変お世話になり、どちらも無事に卒園いたしました。長い年月にわたり、日々温かく見守り、導いてくださった園長先生はじめ、全職員の皆様に心より感謝申し上げます。入園当初、わが子は新しい環境に緊張し、時には不安そうな表情を見せることもありましたが、しかし先生方は、一人一人の気持ちに寄り添い、受け止め、励まし、温かい言葉をかけてくださいました。そのおかげで、子どもたちは安心して園生活を送り、自分らしさを発揮しながら多くの経験を重ね、心も体も大きく成長することができました。

杉の子幼稚園では、「コドモン」という最先端のITツールを活用していることも素晴らしいと思います。園児の登降園の管理や、保護者との連絡だけにとどまらず、一昨年からは写真共有アプリ、昨年からは動画配信もできるようになり、年々バージョンアップしていることに感動しています。保護者が知りたかった園での活動の様子や子どもたちの生き生きとした表情や姿を目にすることができ、親子の会話が広がる大きなきっかけになりました。

二人の子どもを通し、杉の子幼稚園が一貫して持ち続けている教育目標「笑顔がいっぱいの杉の子幼稚園」の実現に向け、先生方が一致協力してご尽力いただいていることを改めて強く感じています。今後も、この温かな教育・保育の理念が受け継がれ、地域の子どもの成長を支える場であってほしいと願っています。そして、園庭に響く子どもたちと先生の笑い声が、これからもずっと続くことを祈念しています。

<評議員/株式会社adear相談役>

杉の子幼稚園の自己評価報告書を拝見しました。園長先生をはじめ教職員の皆様が、園児一人一人の成長を丁寧に見守ると同時に、組織全体としての運営改善に向けて不断の努力を重ねておられることがよく分かります。子どもの姿に即して指導計画を見直したり、日々の保育を振り返ったり、明確なビジョンのもと、教職員が互いに学び合い支え合いながら、短期間のスキル習得だけでなく5年先・10年先を見据えた質の高い人材育成を実現していると感じます。経営の神様と呼ばれる松下幸之助が説いた「企業は人なり」という言葉は、多くの日本企業の共通の価値観となっています。「人材こそ最大の財産」杉の子幼稚園の取り組みを拝見し、この考えが教育現場にも深く通じることを実感しました。杉の子幼稚園では、大規模災害に備え、園舎の耐震化や毎月の避難訓練、防災備蓄の充実など安全管理体制を計画的に整えているとお聞きしました。2024年8月、よさこい祭り直前に「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表され、日常の備えを再確認されたことと思います。我々企業では、BCPプラン（事業継続計画）の作成が義務化され、職員の役割分担や情報伝達の多重化、関係機関との連携が求められています。杉の子幼稚園の自己評価「安全管理体制の強化」項目がBとなっています。努力されていることは承知していますが、BCPプランの作成等、さらに子どもの命を守る徹底した安全管理体制の構築を望みます。